

古河一高男子空手道部が全国高校総体県予選で優勝しました。

6/24(金)、25(土)の2日間をかけて県武道館で行われた全国高校総体空手道競技県予選で、本校の男子空手道部が団体組手で優勝しました。

1回戦から決勝まですべて3年生が出場し、次鋒の佐藤君、副将の八代君、大将の稲葉君が勝利し優勝を掴みました。勝利した3人とも決して余裕のある対戦ではありませんでした。次鋒の佐藤君はリードを許されながらも残り45秒で逆転、大将の稲葉君も残り44秒で勝ち越しに成功したほどのです。

5番手まで対戦する一進一退の戦いでしたが、努力してきた5人全員が前に攻め続ける姿勢にお互いが勇気づけられ古河一高空手道部魂を発揮したものでした。攻め続ける「古河一高らしさ」がもたらした初の栄冠でした。

この他、3年生の佐藤君が個人組手、3年生の松本君が個人型で全国大会の出場権を獲得しています。

この件が6月26日(月)付茨城新聞に掲載されました。ご覧ください。

茨城新聞

令和4年6月26日(日) 5面

2022年(令和4年)6月26日 日曜日

県高校総体
県予選は25日、各地で行われ、空手男子団体組手は古河一が東洋大

空手
男子
団体組手
波崎3-0
東洋大3-2
水戸商3-2
古河一3-2
佐藤3-0
松本3-0
稲葉3-0

古河一、初の頂点 空手男子団体組手

生々々々として、初組手は東洋大生久水城、連続制覇となった。優勝を飾った。女子団体は女子100kg、総学院が1分2秒で総学院が優勝した。

「タフで宮崎県(常)0-1リレは男女とも常

点に立った。男子50kg自由形は山口貴光(鹿島)が23秒79で制した。40

勝利を飾った。女子200kg自由形は鶴岡真央(同)が6秒29で頂

攻め続ける姿勢、前面に



男子団体組手は、前に攻め続ける姿勢を前面に出し、古河一が初の栄冠で」と指揮官が選んだ。撃破。決勝は東洋大生久水城、連続制覇となった。

「空手男子団体組手決勝」果敢に前蹴りを仕掛ける古河一の次鋒・佐藤柊斗(右)＝県武道館

ハイファイ

に輝いた。野口監督(59)人は全3年生。これまでの顔合わせとなった。は「夢のよう。全実感がインターハイ出場を目指し。湧かないと興奮気味に振って「打倒水戸商、東洋大生久水城、佐藤柊斗と副将の八代慈雄久を掲げ、佐藤は序盤に「努力してきたンバー」を掲げ、準決勝で水戸商を3-1で、この有効を立て続けに奪われたものの、「古河一」を切らず、攻め続け、残り44秒で勝ち越しに成功し、優勝を決めると仲間と抱き合い、歓喜した。

残り45秒で形勢は逆転した。結果的に5点差をつけ、八代も果敢に出た。稲葉主将は「今後も攻めたい」と力強く語った。結果は8-0の満点の戦い。大里元樹



初優勝の古河一

い。大将戦に勝った。大将の稲葉龍星主将は「みんなの攻めを見て原点を切らず、攻め続け、残り44秒で勝ち越しに成功し、優勝を決めると仲間と抱き合い、歓喜した。